

世界各地で人道援助に取り組む
宗教NGO、宗教者、信者を結ぶ
人道援助宗教NGOネットワーク

RNN

Religious NGO Network
On Humanitarian Support
Since 1996

そよかぜ

委員長: 西村美智雄
(金光教平和活動センター専務理事)
副委員長: 永宗幸信
(天台宗本住院副住職)
副委員長: 後藤正史
(岡山カトリック教会主任司祭)
事務局長: 黒住宗道
(黒住教副教主)

◆事務局: 〒701-1212 岡山市尾上2770 TEL/ FAX 086-284-1242 Eメール rnn@kurozumikyoo.com ◆RNN公式サイト <http://www.rnn.jp>

岡山大空襲60周年記念・終戦60周年記念

RNNヒーリングコンサート ～ 心一つに祈る～



2005年6月29日 於:岡山カトリック教会



諸宗教の祈りの音楽で
五百人の心がひとつに

RNNでは6月29日、
岡山市天神町の岡山カ
トリック教会で、標記
のコンサートを開催し
ました。

戦後60年、岡山空襲
当日にあたり、戦争に
よって亡くなった人々
の慰霊と世界の平和を
「心ひとつに祈る」と
のテーマのもと、宗派・
教団を超えた7団体の
宗教音楽の演奏、事前
に公募した「祈り」の
詩の表彰などが行われ、
県内外から500人が
参加しました。

第一部のコンサート
では、イスラームによ
るアザーン・クルアーン
の朗誦に始まり、黒
住教の吉備楽、キリス
ト教・プロテスタント
の賛美歌、真言宗の声
明、金光教の吉備楽、
天台宗の声明、キリス
ト教・カトリックの聖
歌が次々と演奏され、

聖堂は深く豊かな信仰
の世界に包まれました。

「祈り」の歌を合唱

このたびのコンサ
ートの開催に際して、事
前に「祈り」の詩を公
募し国内外から72通の
作品が寄せられました。

第二部ではこの中から
最優秀、優秀、佳作、
特別賞など7つの作品
が表彰され、賞状、記
念品等が贈られました。
最優秀に選ばれた
「PEACE」(田淵
明美さん)には、審査
員も務めた、くらしき
作陽大学の中村直樹教
授が作曲、コンサート
の終わりに参加者全員
で合唱しました。

今回の『そよかぜ』
14号ではコンサート特
別号として、7団体の
演奏風景や表彰式、合
唱などの様子、さらに
出演者、参加者から寄
せられた感想などを特
集しました。



開会の祈りを捧げる
後藤正史副委員長
(岡山カトリック教会主任司祭)

そよかぜ 小与加世

人には忘れることのできない
音楽があります。苦しかった
時、辛かった時、または嬉し
くて喜びに満たされていた時
に聴いた音楽が、時を経て再
び耳にした時、その当時の情
景を、鮮明に一種の郷愁を伴っ
て蘇らせはしないでしょうか

▼一人ひとりに大切な思い出があるよ
うに、一人ひとりに忘れることのでき
ない音楽があります。それはときに私
たちを慰め、勇気を与え、生きる力を
授けてくれるものでもあります▼この
地上に音楽のない国や地域はありません。世界中の人々が私たちと同じよう
に、音楽と共に人生といのちに彩りを
添えているのです。世界の様々な音楽
に触れ、心が揺さぶられる感動を抱い
たとき、言葉が分からなくても、歴史
や文化や宗教が違っていても、それは
まさしく、国境を超えて私たちを世界
に結びつけている瞬間なのではないで
しょうか。音楽とは、人種、性別、年
齢の違いを問わない、人間の心と身体
の最も奥底に宿る「いのちの鼓動」そ
のものなのかもしれません▼RNNが
発足して10年目の本年は、戦後60年
にあたります。そして岡山空襲の当日の
今日、私たちは、戦争によって亡くなっ
た人々の慰霊と、こんにち様々な困難
に当面している人々のことに思いをい
たし、世界の平和への願いを、それぞ
れの宗教の信仰世界を最も端的に現す
宗教音楽を演奏することで現し、この
ことを、参加者と祈りを共にしたいと
して「心ひとつに祈る〜Healing Co
ncert 癒しと祈りの演奏会」を開催させ
ていただくことになりました▼私たち
は、人類の苦く悲しい経験の歴史の上
に生きています。「平和」と名の付く
時代を築けるのは、今、生きている私
たちです。この平和への祈りを皆さん
と共に分かち合いたいと思います。
(西村美智雄委員長 開会の挨拶より)

◆吉備楽(黒住教)◆

「吉備楽」は、明治5年(1872)に、岡山藩の楽人岸本芳秀が創始しました。雅楽を基調とした優美な古典音楽で、現在は黒住教と金光教の儀式音楽として伝えられています。

黒住教からは、祭典などで演奏される管絃祭典曲の「管絃」、「春(四季の気色より)」、そして舞曲「男舞(御神楽より)」の三曲が、黒住教音楽寮の小野栄長以下九人によって演奏されました。

「春の弥生のあけぼのに 四方(よも)の山辺(やまべ)を見渡せば 花さかりかも白雲の かからぬ峯こそなかりけれ」と歌われる「春」は、春のながめ(景色)を表現するばかりではなく、



春の兆しを喜び、その訪れに胸躍る、歓喜の心(気色)が現され、明治という新しい時代の到来への喜びも込められています。

舞曲である「男舞」は、祭典執行に合わせ、神前に奉納する儀式の一つです。舞人は太刀と神を捧持して、神への畏敬を現します。

このたびは市原廣美さんが装束に身を包み、優雅な中にも、時として雄々しくダイナミックな舞が披露されました。

聖堂で繰り広げられる東洋の伝統舞曲が、東西文化の邂逅を思わせ、国境を超えた結びつきを感じさせました。



◆アザーン・クルアーンの朗誦(イスラム)◆

コンサート開幕を飾ったのは、イスラームのクルアーン(コーラン)の朗誦でした。

イスラームでは、一日5回の礼拝を行います。礼拝の時間を知らせるのが、アザーンと言われる呼びかけです。そしてこのたびは、クルアーン「第32章サジダ章」が

「サジダ」とは、イスラーム教徒がひざまづいて額を床につける動作のことです。

河田尚子さんが解説を行い、続いて前野直樹さんが、アザーンとクルアーンを朗誦しました。

「アザーンは最も偉大であり、唯一である。ムハンマドがアッラーの預言者である。礼拝に来たれ」という呼びかけが行われました。



クルアーン「われの印を信じる者とは、それが述べられた時に敬慕し身を投げ出してサジダし、主の栄光をたたえて唱念する、高慢ではない者たちである」という内容です。サジダをするとき、アッラーにもっとも近づくと言われていました。この章は、まだムスリムがメッカで信者も少ない時期に啓示されたもので、この世界と人間を創造され、不毛の地を沃野にされるアッラーの栄光をたたえています。

また最後の審判の日に人間が復活させられ、主のみもとに帰ることを述べ、迫りし信仰を否定する者たちに警告を与え、信仰し善行にはげむ者たちを励ますものです。

低く、静かに始まり、時に高く響き渡る朗誦は、異境の地で神と人間を結ぶ力を思わせるものでした。

◆讃美歌(キリスト教・プロテスタント)◆



日本キリスト教団倉敷教会の聖歌隊18人による讃美歌「主よ、祈りまつる」、「祈り」、「主よ、祝し守り」の三曲が演奏されました。

とくに二曲目の「祈り」は、「わが神、わが主は、新しい歌を供え給う。この歌はいのちの神に捧ぐる祈りなり。わが言葉、わが心の思いを御前に受け入れ給え」と歌われ、このたびのコンサートにふさわしい楽曲でした。

教会の暦に応じて、イエス・キリストの父なる神に捧げる讃美歌は、いずれも「祈り」を主題にしたもので、平安を祈り、憩いを願い、神へ讃美、祝福するものです。

来年、教会が生まれて百年を迎え、そして結成80年を超える混声合唱団は、教会での礼拝時のみならず、クリスマス時期には、地域でのキャロリング(巡回賛美)などに取り組んでいます。

聖歌隊の絶妙なハーモニーは、美しく心地よい響きを聖堂にもたらし、聴衆の心に癒しと安らぎを与えました。

- 参加者の声—
- ◆今日はありがとうございました。60年前の今日、私も岡中で炎の中を逃げました。今日まで生きて来られたことに感謝しつつ、平和のために祈らずにられません。数ある宗教が一つになったこと、今後もそうあれと思っています。(岡山市H.Mさん)
 - ◆各宗派にそれぞれの祈りの音楽があることに、改めて感動しています。初めて宗教音楽に触れ、心が洗われ、いやされ、そして御霊もまた集ってお聴きくださっていると確信しました。(岡山市H.Kさん)
 - ◆七つの宗教が集まり、祈ってくださったことに感動しました。皆の祈りが一つになって神のもとに届いたと思います。まずは祈りと、できることをしていきたいと思いました。(三重県度会郡T.Sさん)
 - ◆各宗教の最高の音楽を拝聴させていただき、大変幸せでした。この他大本、天理、PL教、神社など他の宗教の音楽もを聴かせていただきましたと思います。(岡山市Y.Kさん)

==出演者・参加者の感想==

- 出演者の声—
- ◆いやしくも宗教である限り、神の愛と祈り、救い、そして平和を説かないものはありません。しかし、戦争は起き、様々な事情で万人が打ち解ける状況は到来していません。
 - このたびのRNNヒーリングコンサートは、それが見事に乗り越えられたイベントでした。最終的に地球を救う力は、これだ!!という気持ちがありました。そしてこうした機会に最高の緊張感をもって奉仕させていただいたことに、私たちは深く感謝します。
 - ◆宗派・教団を超えた催しは多くありますが、それぞれの宗教音楽を一堂に会して発表する機会はなかなかありません。このたびの企画を実行されたRNNの皆さんに深く感謝し、またの機会を切望します。

◆吉備楽(金光教)◆

金光教からは、金光教典楽会中国支部の皆さん10人により、吉備楽の中から、舞が振り付けられている舞曲「春の調」が演奏されました。

黒住教とルーツを同じくする金光教の吉備楽は、大正時代、初代楽長・小原音人が金光教の祭典楽として「中正楽」を創作して独自の展開がはかられています。

このたび演奏された「春の調」は、金光教のオリジナル楽曲です。

「新玉の年の始めの寿や 昔のままに吹きあぐる 笛と鼓の音までも 春の調と聞きなされ：千代の例に引かれつつ 四方の海原浪なきて 吹くも静けき



二人のきらびやかな衣装は、時間をさかのぼって万葉の趣を漂わせ、こぼれるような美しさのため息が聞こえました。

時津風 枝も鳴さぬ御代の春」と歌われる曲は、明治の時代を迎えて、明るく希望に満ちた人々の心境を現しています。

舞人は、蜂谷裕子さん、片岡まゆみさんの二人。上手、下手からそれぞれゆっくりと登場した舞人は、優雅に、乱れることなく、そして流れるように舞い、日本の春のどかさ、明るい陽光の幸福を演じました。

◆声明(真言宗)◆

声明とは節のついたお経です。もともとは古代インドの五つの大切な学問(五明)の一つで言語・文法・音律など広く言葉に関する学問を意味していました。今ではインド、中国、日本を通じて仏教音楽の中心を成しています。仏教の伝来と共に我が国にも伝えられ日本の音楽の基礎となつて、

後世の謡曲や民謡に大きな影響を及ぼしまっています。

真言宗からは「四智の讃」、「散華」、「対揚」の三曲が演奏されました。

「四智の讃」は、真言宗の教主、大日如来の徳を讃



来の徳を讃え、「散華」は、仏様の供養に花を捧げる際に唱える声明で、すべての生命の成仏の祈りを込めて演奏されました。

最後の「対揚」は仏様を讃え、人々の願いを一つ一つ唱えるものです。

真言声明は、地の底から湧き出でるような静かさで力強さがあり、仏教世界の深さと大きさを感じさせ、荘厳と法悦の境地をかもしたすものでした。



◆讃美歌(キリスト教・カトリック)◆



第一部の最後を務めたキリスト教・カトリックからは、テノールの松本敏雄さんが、「PIE JESU(イエ・イエス)」、「G・フォーレ/レクイエムより」、「PANIS ANGELICUS(天使のパン)」、「C・フランク」の二曲を演奏しました。

レクイエムとは、死者のための鎮魂ミサ曲のことで、「主よ、やさしきイエスよ、彼らにやすらぎを与え給え。彼らに永遠の安息を与え給え」と歌われるこの楽曲のモチーフは、フォーレの父親の死を悼んだものです。

二曲目は、ミサの「聖体拝領」における聖なるパンを讃え、「天使のパンは人のパンとなり、天のパンは世に命を与ふ。おお、驚くべきかな、貧しき者、乏しき者、彼ら主の御身体を食す」と歌われます。

荘厳なパイプオルガンの響きとのびやかなテノールが、生と死との対比的な事実と鮮やかな陰影を与え、「いのち」というものの奇蹟を想起せしめるものがありました。

◆声明(天台宗)◆



天台宗の声明では、「対揚」と「百八讃」の二曲が披露されました。「百八讃」は百八尊の仏名を唱えて、その威儀を賛嘆するものです。

声明は、諸仏を讃え、その教えに耳を傾け、己を懺悔するための音楽です。語源はサンスクリット語からきています。英語では「Buddhist Chant」といいます。

天台声明は、伝教大師最澄の始めより慈覚大師円仁が招来し、確立されました。

とくに天台声明は音階が広く、森羅万象、天地に通じる世界が表現され、いのちの鼓動を刻むようなリズムは、聴く者を包み込む力を感じさせました。



祈りの歌の表彰式。最優秀「PEACE」を全員で合唱



- 最優秀「PEACE」 田淵明美さん
- 優秀「生きる」 橋本朋子さん
- 佳作「ねがい、平和へのねがい」 星念節子さん
- 佳作「祈りの歌」 徳永知子さん
- 佳作「風の祈り」 妹尾礼子さん
- 特別賞「函山の祈り」 國正次夫さん
- 海外特別賞「太陽に祈る」 宇塚弘教さん
- (宇塚さんはスリランカ在住のため欠席)

60年前の6月29日、当時、小学生だった私は、火の玉が空からいっばい降り続く光景を見て、大変おそろしい思いをしました。

戦争の犠牲者を追悼し、平和を祈るという、宗派を超えた音楽会が開催され、ただただ感激しています。

詩は心を書くものです。心は目に見えませんが、見えないうもを現すことは本当に難しいことです。集まった作品は、平和への願い、愛に満ちあふれ、心に響くものばかりで大変感動しました。

その中で、「PEACE」が最優秀に選ばれましたが、とても若い方を選びくりしました。言葉の運び方がよく、力が感じられ、リズムの運びがまとまっていました。

なお、選外となった作品も優れたものばかりで、心に迫ってくるものばかりでした。

今、世界各地で、地域紛争や核問題が話題となっております。その紛争などでは、人間だけでなく、野生の動物たちも犠牲になって苦しんでいるのです。

野生の動物たちも平和を願っているはずですが、その鳥や動物たちの祈りを「PEACE」の詩に込めました。



●審査員 なんばみちこさん評



●田淵さん受賞の挨拶

選考の際は、「祈り」という主題が普遍的に表現されているか、また歌として成立する構成になっているかという点に注目し、このたび作曲するに当たっては、広く一般の人々にもなじみやすい曲想を念頭に作業を進めました。

作曲者としては、どれほど詩の心を汲み取り、そのテーマを自分らしく現すが重要でみると「素直に書けた」という印象です。むしろ、詩の力が曲を書かせたといっているでしょう。

音楽は伝達の技術です。しかし、人々の心のひだに触れ、感動を与えられるのは、表現者の才能はもろいですが、その基をなすのは、人の心なのです。「PEACE」が広く歌われることを祈ります。

中村直樹教授評

平和な世紀であることを夢見て迎えた20世紀は、わずか5年で、命の奪い合いの世紀となりました。森羅万象、神仏の前で懺悔し、山川草木すべての生命を尊重し、一人ひとりが平和な世界の実現を祈願していかなければなりません。60年前に失われた尊い生命に黙祷を捧げます。サンガラトナ法天マナケ



平和な世紀であることを夢見て迎えた20世紀は、わずか5年で、命の奪い合いの世紀となりました。森羅万象、神仏の前で懺悔し、山川草木すべての生命を尊重し、一人ひとりが平和な世界の実現を祈願していかなければなりません。60年前に失われた尊い生命に黙祷を捧げます。サンガラトナ法天マナケ



R N N 活動協力者名

※下記の名称は、協力者が寺院、教会、団体、個人等の場合でも所属教団、宗派名のみを掲載させて頂きました。

- イスラーム
- 臨濟宗
- 立正佼成会
- プロテスタント
- 天理教
- 天台宗
- 創価学会
- 真言宗
- 最上稲荷教
- 金光教
- 黒住教
- カトリック